

チケット

料金:大人 2,500円/18歳以下 500円

ご予約は、右記窓口にてお受けします。  
料金はご来場時にお支払いください。

電話/(0857)84-3268  
ウェブ/www.birdtheatre.org/reserve/  
電子メール/ticket@birdtheatre.org



予約受付は  
4月9日(土)  
10時より

感染症対策

- 観客や参加者同士が十分な距離を取れる広さの場所、定員でプログラムを実施します。
- ご来場時に検温を実施します。(37.5度以上の発熱がある方は、ご入場をお断りする場合があります。)
- 「とっとり新型コロナ対策安心登録システム」への登録を推奨します。
- 会場の定期的な換気、消毒を行います。
- マスクの着用をお願いいたします。
- 県外からお越しのお客様は、検査を受検して陰性を確認してから来県をお願いします。  
※鳥取県からの「来県される方へのお願い」もご参照ください。

上演をもっと多くの方に楽しんでいただくために

**無料送迎します**  
JR鳥取駅・浜村駅と鳥の劇場を結ぶ送迎バスを運行します。  
無料で、どなたでもご利用いただけます。  
※土日祝日のみ運行します。  
※利用人数の把握の都合上、必ず事前のご予約をお願いします。

**鳥のカフェがあります**  
上演の前後にコーヒーや各種ソフトドリンクなどを販売いたします。  
※鳥取公演、14時開演の回のみ営業します。

**バリアフリーをめざします**  
障がいのある方にもご覧いただけるよう、適宜対応いたします。  
・車いすの方など入場時に配慮が必要な方を対象に、優先入場を行なっています。  
・視覚障がいの方のために、上演前に舞台空間の説明をします。

**字幕あります**  
セリフが聞こえづらい方のために、手に持てる小さい“字幕”をご用意しております。

**English Subtitles available**  
セリフの英語訳を自動的に表示するiPodをご用意しています。  
Programmes are available with English subtitles which automatically appear on iPod screen.

**鳥の劇場行きバス 運行予定時刻**

JR鳥取駅南口 フコク生命ビル前	JR浜村駅	鳥の劇場
12:30発	→ 13:05発	→ 13:20着

鳥の劇場へのアクセス 鳥取県鳥取市鹿野町鹿野1812-1 電話:0857-84-3268

- JRを使って**  
劇場の最寄り駅はJR浜村駅です。  
※土日祝日の公演日は、JR鳥取駅・浜村駅と鳥の劇場間の無料送迎バスを運行します。(要予約)
- 浜村駅まで
    - ・鳥取駅から、山陰本線、米子方面行きで30分
    - ・倉吉駅から、山陰本線、鳥取方面行きで25分
    - ・米子駅から、山陰本線、鳥取方面行きで1時間40分
  - 浜村駅から・車で15分
- 車を使って**
- ・山陰道 鳥取西道路、浜村鹿野温泉IC・瑞穂宝木ICから約10分
  - ・鳥取市中心部から約30分
  - ・倉吉市中心部から約40分
  - ・米子市中心部から約1時間20分



(鳥取公演) 主催:特定非営利活動法人鳥の劇場  
後援:鳥取県 鳥取市 鳥取県教育委員会 鳥取市教育委員会 NPO法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会 鳥取大学地域学部附属芸術文化センター  
新日本海新聞社 株式会社ふるさと鹿野  
助成: **文化庁** 文化庁 文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会  
令和4年度 鳥取県 文化芸術地域モデル全国発信事業補助金活用事業

(米子公演) 主催:鳥の劇場運営委員会 共催:鳥取県  
助成: **文化庁** 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業 令和4年度 鳥取県 鳥の劇場運営委員会補助金活用事業

サポーター寄付のお願い

民間の劇場である鳥の劇場は、みなさんからのご寄付によって、大きな力をいただいています。ファンクラブ的な見返りは何もありません。ただ、「もらう、がんばる、世界を変える」です。いただいたお金は活動の充実のために効率的に使わせていただきます。ご支援を賜りますよう、深くお願い申し上げます。  
詳しくはこちらをご覧ください。

www.birdtheatre.org/support/



鳥の劇場2022年度プログラム<創るプログラム>

「イワンのぼか」は、1885年にロシアの文豪トルストイによって書かれた素朴で漫画のような物語。動きもで他人にやさしい農民イワンに悪魔が目をつけ、彼を破滅させようと試みます。楽しくわかりやすい物語で、いろいろな動物も登場しますから、小さいお子さんから楽しめます。同時に豊かさ、そして戦争・武力侵攻の問題にも触れています。これからの世界のあり方について、大人と子どもがいっしょに考えることのできる作品です。

BIRD Theatre Company TOTTORI

Ivan the fool

English subtitles available

Based on the story by Lev Nikolayevich Tolstoy  
Adapted for the play by NAGAYAMA Tomoyuki  
Directed by NAKASHIMA Makoto

■TOTTORI  
2PM on  
April 23, 24, 25, 28, 29, 30, and  
May 1, 3, 4, 5, 7, 8, 13, 14

7PM on  
April 26, and  
May 9, 10, 11

Venue: BIRD Theatre  
1812-1, Shikano, Shikano-cho, Tottori City,  
Tottori Prefecture

■YONAGO  
6PM on  
May 19 and 20  
Venue: Yonago Culture Hall  
293, Suehiro-cho, Yonago City, Tottori Prefecture

Tickets  
Adults: 2,500yen  
18 years old and under: 500yen

Contact  
E-mail: info@birdtheatre.org  
Telephone: 0857-84-3268  
Website: www.birdtheatre.org

JR鳥取駅・浜村駅から  
**無料直通バス**  
を運行します。  
※土日祝日のみ  
※要予約

**感染症予防対策**  
を講じた上で  
上演します。

**イワンのぼか**

原作:L.トルストイ  
台本:永山智行(劇団こぶく劇場)  
演出:中島諒人

鳥取公演  
2022年4月23日(土) ~ 5月14日(土)

※休演日  
4月27日(水)・5月2日(月)・6日(金)・12日(木)

鳥の劇場  
鳥取県鳥取市鹿野町  
電話0857-84-3268

米子公演  
2022年5月19日(木)・20日(金)  
米子市文化ホール  
鳥取県米子市末広町  
電話0859-35-4171

なぜ殺す、なぜ壊す、悪魔がしかける戦争にイワンが問う

頭をつかって働くというのは、いかに働かないか。こういうことです。

馬鹿だからね、おれたちは。そんなことわかりやしないよ。

BIRD Theatre Company TOTTORI



# イワンのばか

豊かかって、幸せって何だろう???



原作:L.トルストイ  
台本:永山智行(劇団こぶく劇場)  
演出:中島諒人  
出演:齊藤頼陽 中川玲奈 赤羽三郎  
高橋等 中垣直久 安田菜耶  
後藤詩織 宮下泰幸 下地萌音  
小口響郁 山口真由 中野藍

■イワンのばか あらすじ  
イワンは農民。口のきけない妹や動物とともに畑を耕し、のんびり楽しく暮らしている。やさしい彼は、他人の求めることを何でも受け入れるので、彼のまわりではケンカやもめごとが一切ない。そのことに腹を立てた大悪魔が、三人の子分を使って彼の世界に憎しみやいさかいの種をまこうとする。が、ことごとく失敗。それどころかイワンはひよんなごびりから国王となり、国全体が王を手本にのんびりやさしくなってしまう。大悪魔はますます怒り、自ら乗り出して金の力そして武器の力で、イワンの国の平和を破壊しようとする。

Ivan the fool  
Based on the story by Lev Nikolayevich Tolstoy  
Adapted for the play by NAGAYAMA Tomoyuki  
Directed by NAKASHIMA Makoto

鳥取公演  
2022年4月23日(土)~5月14日(土)  
※休演日:4月27日(水)・5月2日(月)・6日(金)・12日(木)

会場 鳥の劇場  
(鳥取県鳥取市鹿野町 電話0857-84-3268)

米子公演  
2022年5月19日(木)・20日(金)

会場 米子市文化ホール  
(鳥取県米子市末広町 電話0859-35-4171)

4/23 (土)	24 (日)	25 (月)	26 (火)	27 (水)	28 (木)	29 (金・祝)	30 (土)	5/1 (日)	2 (月)	3 (火・祝)	4 (水・祝)	5 (木・祝)	6 (金)
14時	14時	14時	19時	休演日	14時	14時	14時	14時	休演日	14時	14時	14時	休演日
7 (土)	8 (日)	9 (月)	10 (火)	11 (水)	12 (木)	13 (金)	14 (土)	15 (日)	16 (月)	17 (火)	18 (水)	19 (木)	20 (金)
14時	14時	19時	19時	19時	休演日	14時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時

## 2022年度の活動に向けて

新型コロナ感染の常態化、そしてロシアによるウクライナへの軍事侵攻という状況の中、新しい季節がやってきました。昨年度、当劇場は資金調達の失敗により例年とは少し異なる形で事業を行い、例年なら新作公演をする2月から3月にかけて、活動開始15周年ということで鳥取県内全域13会場で、親子で楽しめるお芝居『どろぼうがっこう』を上演しました。その折に考えたことがありました。

まずは来場者数のこと。15年の活動を通じて、多くの方にずいぶん知ってもらえるようになったと感じています。けれど一方で、もっと来場者を増やしたい、増やさなければいけないという危機感もあります。経営的な意味も含めてです。それで各会場にご来場のみなさんに鳥の劇場への来場経験の有無を聞いてみました。どの会場でも半数に届きませんでした。「なるほど、確かにまだまだだ」と思いました。けれど同時に、「まだまだだが、まだまだ行ける」とも。『どろぼうがっこう』公演に来てくれるのですから、演劇には興味があるみなさんです。この人たちに劇場まで来てもらうことができれば、もっともっと劇場の活動が豊かになるのです。

それからもう一つ、新型コロナの感染拡大の中で感じるのは、劇場でいろいろな人と肩を並べて芝居を見ることの価値が高まっているということです。『どろぼうがっこう』は漫画のような芝居で、いつも観客席に笑い声が満ちます。けれど、今回の巡回ではそれが少し少なくなりました。観客席は満席の半数を定員としていて、一席ずつ空けて着席してもらうことを基本としました。それでお客さんの笑いが伝染しづらいのです。演劇のいいところは、知らない人も肩を並べて、無意識に観客同士が影響し合いながら芝居を楽しむことです。コロナによりその劇場の力が奪われることで、観客席がもつ価値をあらためて認識しています。現代はネットを通じて映像をはじめ、いろいろなメディアを一人で楽しむ時代になりました。それはそれでいいところもたくさんあります。が一方で、社会的な孤立や分断が進む中、他者につながる機会、他者に寄り添う力、寄り添われる力が求められるようになっていきます。他者とは知らない人です。劇場は知らない人とも、共感によりゆるやかにつながることのできる場です。

今年度は、さらに多くの新しい観客のみなさんと出会うこと、劇場で提供する体験をさらに深めることを目指します。ぜひ応援してください。(鳥の劇場芸術監督 中島諒人)

## 2022年度 これからの活動予定

### 『葵上』with OEK [2022年8月]

鳥の劇場の人気レパートリー作品の再演。千住明氏書き下ろしの室内楽曲で彩られる、三島由紀夫の耽美的な世界。オーケストラ・アンサンブル金沢(OEK)の生演奏と共に届けます。



### おとなな劇場 リーディング上演

[2022年11月~2023年3月]

一般公募による65歳以上の方々でリーディング上演を行います。読解を通して学びの楽しさや人前に立つ喜びを感じてもらい、劇場が新たな生きがいを創出する場となることを目指します。



### 鳥の演劇祭15 [2022年9月・10月]

毎年秋に開催する演劇のお祭りです。鳥の劇場の元校庭部分に“特設野外劇場”を設け、“劇場”と二つの会場で上演を行います。上演の合間にはレクチャーやワークショップも実施し、参加者みんなで“これから”を考える場になることを目指します。



### 『三人姉妹』 [2023年2月・3月]

チェーホフの不朽の名作を新作として製作。社会、時代の転換点に立たされ不安を抱えた人々が、ここではないどこかに希望を持つ姿に、現代日本に生きる私たちの焦燥と不安を浮かび上がらせてます。



### 戯曲の講座 [通年]

演出家や俳優のナビゲートのもと、参加者が「戯曲」を読んだり演じてみたりすることを通じて、演劇の面白さを感じてもらおう企画。鳥取県内の図書館や学校などで開催する予定です。

### 小鳥の学校 [2022年7月~2023年3月]

小学5年生から中学3年生の子どもたちが、全員一丸となってお芝居を創作し発表上演します。子どもたちにとって、“自分で考え、行動する”ための学びと成長の場となることが小鳥の学校の目標です。



### じゆう劇場

じゆう劇場は、鳥の劇場のプロデュースのもと、2013年8月に活動を開始したプロジェクト。障がいのある人、ない人が一緒に舞台を作り、日常生活では隠れがちそれぞれの豊かさを発見し、その素晴らしさを観客と分かち合うことを目指しています。今年度は、これまで同様の長編作品の創作・発表に加え、アメリカや韓国の舞台芸術団体とのコラボレーション作品などを創作、発表する予定です。